

単元名 1 学びをひらく 一情報を整理して書こう わかりやすく説明する 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 相手に理解してもらうために、言葉遣いや語句の選び方、表現方法を工夫することができる。
(2) 身近な生活の中から説明したい事柄を決め、観点を立てて情報を整理して、考えをまとめることができる。
(3) 目的や相手を明確にした上で、観点を立てて情報を集めたり、分類したりしながら、分かりやすく伝わる文章を書こうとする。

標準的な展開例

10210106_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の目標を理解し、説明する事柄を決める。 ○目標や学習の流れを確認し、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★自分が説明する題材と目的・相手を決めよう。 ○題材・目的・相手を考え、説明する題材を一つ選ぶ。</p> <p>2 観点を立てて情報を集め、目的や相手に応じて必要な情報を取捨選択する。 ○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★観点を立てて情報を集め、目的や相手に応じて必要な情報を選択しよう。 ○マッピングなどを用いて観点ごとに情報を書き出す。</p> <p>○相手と目的を考えて、使う情報を取捨選択する。</p> <p>3 文章の構成を考え、分かりやすい表現で工夫して書く。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★表現を工夫して分かりやすい文章を書こう。 ○文章の構成を考える。</p> <p>○考えた構成をもとに、400字程度の文章を書く。</p> <p>4 書いた文章を読み合い、感想を伝え合うとともに、観点を立てて情報を捉えることの大切さを理解する。 ○本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>・「目標」「学習の見通し」(p. 34～p. 35)を読み、本単元の学習の目標と見通しを理解させる。</p> <p>・目的や相手によって伝える情報が変わることや、観点を立てることで情報が整理しやすくなることを伝える。</p> <p>・自分が興味をもっていることや、友達に知らせたいこと以外にも、「発想を広げる」(p. 272)を参考にテーマを決めさせてもよい。</p> <p>・「知多の友」を使用する。 【評】身近な生活の中から自分が伝えたい事柄を選ぶ活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・説明する題材を「私たちの教室」とした場合どんな観点があるかを全員で出し合って考えさせる。</p> <p>・「マッピングの例」(p. 35)を用い、マッピングの説明をして、取り組ませる。</p> <p>・「情報整理の方法」(p. 271)を参考に、情報を集めさせる。</p> <p>・自分が書きたい題材について、五つ以上の観点を立てさせたい。</p> <p>・疑問や不十分な点については、資料を活用したり人に聞いたり、詳しく思い出したりするよう助言する。</p> <p>・「知多の友」を使用する。</p> <p>・「観点ごとにまとめた例」(p. 35)を参考に、情報を整理させる。</p> <p>・相手と目的を再確認させ、必ず入れる情報と入れない情報とを区別させる。 【評】観点を決めて情報を集めたり分類したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「知多の友」を使用する。</p> <p>・「構成の仕方の例」(p. 36)を参考にさせる。</p> <p>・説明する観点をどのような順序で伝えるのかを考えさせる。</p> <p>・「学習の窓」(p. 37)を参考にさせる。</p> <p>・相手に分かりやすく伝えるための順序を考える際には、付箋やカードに書いたものを実際に並べ替えさせてもよい。 【評】構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「文章にまとめた例」(p. 37)を参考に、下書きをさせる。</p> <p>・読み手を意識した言葉遣いや語句の選び方を考えさせる。 【評】言葉遣いや語句の選び方、表現方法を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

★書いた文章を読み合い、感想を伝え合おう。
○丁寧に清書する。

○書いた文章を読み合い、感想を交流する。

○「学習を振り返る」(p.37)を読み、自己評価を行う。

・前時に書いた下書きを読み直し、誤字脱字や分かりにくい表現がないかなどを確認する。

・読みやすい丁寧な字で書かせる。
・3～4人のグループを作り、互いの文章を読み合わせる。

【評】書いた文章を読み合い、感想を伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・「つなぐ」(p.35)にも触れ、日常生活や学校生活などにも生かせるようにする。

【 備 考 】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため、親しみやすい内容の物語を読むことを通して、中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い、それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり、これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は、中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの、ここでの学習を、説明する力の基盤として捉え、「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では、物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ、情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで、取材する際に情報が分類整理しやすくなり、目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また、日常生活で行われる情報の伝達は、整理された分かりやすいものばかりでは決してなく、様々な情報が雑多に届けられる中で、自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため、「情報を的確に聞き取る」では、自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして、実用的なメモを取り、生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して、様々な事柄を真剣に考え、知識や理解を深めることで、言葉の力を鍛えていきたい。また、情報を多角的に分析し、根拠に基づいて判断することで、論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では、漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも、中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組ませるなど、意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また、「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に着目させ、漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。